
時間商人

無大琥子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間商人

【Nコード】

N3920B

【作者名】

無大琥子

【あらすじ】

見知らぬ男に「時間を売ってください」ともちかけられる。

コンビニを出ると若い男に声をかけられた。

濃紺のスーツを着て水色のネクタイを締め、黒いかばんを提げてニコニコと目を細めた、いかにも営業マン風な男だった。

「ちょっとよろしいですか？お時間売っていただきたいのですが。一日十万円で買い取らせていただきます」

私は胡散臭そうに相手を見やった。

「売るって、どうやるんだ？」

「方法は企業秘密です」

「だから売った一日、オレはどうなる」

「大丈夫、最後の一日をもらうだけですから」

私は首をかしげた。それはつまり、寿命が一日減るということか。買ってどうする」

「のどから手が出るほど時間が欲しい方にお売りしております」

「どうせ馬鹿高い値で売りつけてるんだろ」

「しかし売主様に悪い話じゃないでしょう。十万円ですよ？無駄な一日を過ごしたことはございませんか？あなたの無駄な一日を人様のために役立て、さらにお金がもらえる。誰もが幸せになれる取引、それが時間売買なのです」

「ちょっと待て、だからそれは時間売買じゃなくて、いのち……」

言いかけた私を男はさえぎった。

「失礼ですが、今日はどのようにお過ごしで」

「午後に起きだしてずっとネットしてたよ。腹が減ったからコンビニに弁当を買いに来たところだ」

「しょうもないですね」

男に満面の笑みで言うてのけられた私は黙り込んだ。

私は今までどれだけ、今日のような無駄な日を積み重ねてきただらう。

「即金でお支払いいたしましょう」

男はかばんの口を少しあけた。札束がのぞいた。凝視した私を男がにやりと見た。

「いや待て、まだ待て」

この無為で怠惰ななんの意義もない日々を、一日売るだけで十万円。十日売れば百万円。

売るのは果たして時間なのか命なのか。

命を売る。

それはどうということだ？その行為はどういう意味を持つのだ？

男はかばんに手を突っ込んだ。

そしてにこやかに待っている。

私の回答を既に心得たような顔で、そこで待っている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3920b/>

時間商人

2010年12月2日15時45分発行